ネオセンサ TM
室内用 CO_2 濃度・温度センサ
形 CY7101

■概　要

ネオセンサシリーズである室内用 CO_2 濃度・温度センサ（形番 CY7101）は、室内の CO_2 濃度・温度を検出するセンサです。
室内の CO_2 濃度・温度の監視・VAV ユニットの風量制御などに利用できます。

■特　長

- 広範囲にわたり精度のよいCO_2濃度計測・温度計測ができます。
- CO_2濃度計測方式は、非分散型赤外線吸収法（NDIR）方式を採用しています。
  温度計測は、温度検出素子に測温抵抗体（Pt100）（JIS C1604 A級）を使用しています。
- CO_2濃度出力信号は、DC1～5 Vでリニア特性です。
- 長期安定性を有します。
- 耐環境性に優れています。
- 応答性・再現性に優れています。
- 小型（薄型）・軽量です。

重要 !!
- 有害な化学物質を取り扱う系統・ウイルス病原体を取り扱う系統などでは、本製品をはじめとする CO_2 計測器で新鮮な空気（外気）導入量を制限する制御をしないでください。
  常時新鮮な空気を必要とするこれらの系統で導入量を制限することは、危険を伴います。
- 本体は、検査・校正後、梱包され、工場出荷しています。
  施工後の大きな出力ドリフトをできる限り小さくするため、開封・取付は、電源投入直前（48時間以内を目安とします）にしてください。
  開封から電源投入まで、また電源遮断後、長時間（48 時間以上を目安とします）無通電放置状態が続いた場合は、電源再投入後、ゼロガス校正を実施してください（(参照)『■ 保守』）。
- 本製品は、NDIR 方式を採用しているため、定期的に発光します。
  暗くして使用する部屋での使用を避けてください。

© 2016–2026 Azbil Corporation. All Rights Reserved.

安全上の注意

ご使用前に本説明書をよくお読みのうえ、仕様範囲内で使用目的を守って、正しくお使いください。
お読みになったあとは、本説明書をいつでも見られる所に必ず保管し、必要に応じ再読してください。

使用上の制限、お願い

本製品は、一般機器での使用を前提に、開発･設計･製造されています。

本製品の働きが直接人命にかかわる用途および、原子力用途における放射線管理区域内では、使用しないでください。一般空調制御用として本製品を放射線管理区域で使用する場合は、弊社担当者にお問い合わせください。

特に　・人体保護を目的とした安全装置　・輸送機器の直接制御（走行停止など）・航空機　・宇宙機器 など、安全性が必要とされる用途に使用する場合は、フェールセーフ設計、冗長設計および定期点検の実施など、システム・機器全体の安全に配慮した上で、ご使用ください。

システム設計・アプリケーション設計・使用方法・用途などについては、弊社担当者にお問い合わせください。

なお、お客様が運用された結果につきましては、責任を負いかねる場合がございますので、ご了承ください。

■設計推奨使用期間について

本製品については、設計推奨使用期間を超えない範囲でのご使用をお勧めします。

設計推奨使用期間とは、設計上お客様が安心して製品をご使用いただける期間を示すものです。

この期間を超えると、部品類の経年劣化などから製品故障の発生率が高まることが予想されます。

設計推奨使用期間は、弊社にて、使用環境・使用条件・使用頻度について標準的な数値などを基礎に、加速試験、耐久試験などの科学的見地から行われる試験を行って算定された数値に基き、経年劣化による機能上支障が生ずるおそれが著しく少ないことを確認した時期までの期間です。

本製品の設計推奨使用期間は、10 年です。

なお、設計推奨使用期間は、寿命部品の交換など、定められた保守が適切に行われていることを前提としています。

製品の保守に関しては、『■ 保守』を参照してください。

■「注意」

⚠ 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合。

■絵表示

	記号は、危険の発生を回避するために特定の行為を禁止する場合に表示（左図は分解禁止の例）。
	記号は、危険の発生を回避するために特定の行為を義務付けする場合に表示（左図は一般指示の例）。

⚠ 注　意	
	雷対策は、地域性や建物の構造などを考慮し、実施してください。 対策しないと、落雷時に火災や故障のおそれがあります。
	本製品の給電元にヒューズ、遮断器などの保護装置をつけてください。 短絡して火災や故障のおそれがあります。
	本製品は、本説明書に記載された仕様範囲内で取り付け・結線し、運用してください。 火災や故障のおそれがあります。
	取り付け・結線・保守作業は､計装工事､電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。 施工を誤ると、火災や感電のおそれがあります。
	結線・保守作業は、本製品への電源を切った状態で行ってください。 感電や故障のおそれがあります。
	配線については、電気設備技術基準、内線規程などに従って施工してください。 施工を誤ると、火災のおそれがあります。
	電線の端末は、絶縁被覆付き圧着端子を使用してください。 絶縁被覆がないと、短絡して火災や故障のおそれがあります。
	結線・保守作業後は、カバーを元に戻してください。 カバーをしないと、感電のおそれがあります。

■形　番

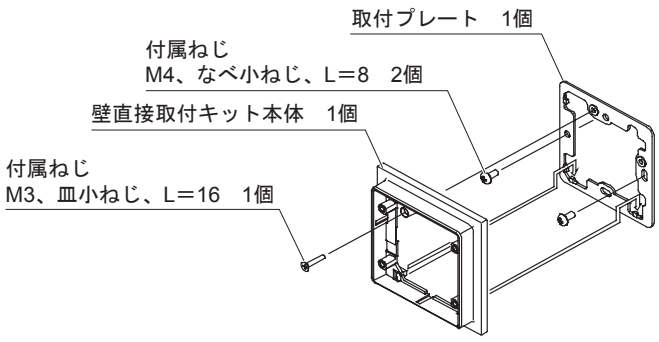
基礎形番	形　状	電　源	CO_2 濃度出力	温度出力	固　定	出力線	社　名	内　容
CY710								室内用 CO_2 濃度センサ
	1							ネオセンサ
		T						AC/DC24 V 共用
			1					CO_2 濃度出力 1 ～ 5 V
				P				測温抵抗体（Pt100）
					0			―
						1		モジュラジャック出力
								社名あり
							-1	社名なし

● 別途手配品

ネオセンサは、別途手配の専用取付キットや補助機器などと組み合わせて使用できます。

項　目		形　番	備　考	
専用取付キット	壁直接取付キット	83165803-001		
補助機器	配管接続形サーモプレート	DY2000A1021	1 個用角形	露出配線工事に使用します。
		DY2000A2021	2 個用横形	
		DY2000A3021	3 個用横形	
モジュラ付ケーブル		DY7227A0020	モジュラプラグ（オス型）ーリード線：標準仕様（長さ 280 mm）	
		DY7227C0020	モジュラプラグ（オス型）ーリード線：エコ仕様（長さ 280 mm）	
		DY7204A0008	モジュラジャック（メス型）ーリード線（長さ 125 mm）	
CO_2 サービスバッグ（CO_2 ゼロガス供給キット）		83104511-001	ゼロガス校正に使用します。	
CO_2 サービスボンベ		83104981-001		
DC24 V 電源ユニット		QY7000C1000	1 次側 AC100 V, 2 次側 DC24 V	
		QY7000C2000	1 次側 AC200 V, 2 次側 DC24 V	

● 取付方法別の取付キット

取付方法	取付キット（形番）	構成内容
壁直接取付 配管接続形サーモプレート取付	壁直接取付キット（形番 83165803-001）	

■仕　様

項　目		仕　様	
計測範囲	温度	0 ～ 50 ℃	
	CO_2 濃度	0 ～ 2000 ppm	
計測法	CO_2 濃度	非分散型赤外線吸収法（NDIR）	
出力信号	温度	100Ω/0 ℃　測温抵抗体（Pt100）（JIS C 1604 A級）	
	CO_2 濃度	DC1 ～ 5 V ＊ CO_2濃度0～2000 ppmに対し、リニア ＊ 相手側入力インピーダンス　50 kΩ以上	
検出精度	温度	0.6 ℃[*1] ± 0.7 ℃[*2]（0 ～ 50 ℃において） ＊1 回路発熱影響により、0.6 ℃の温度上昇があります。 コントローラ側でオフセット調整してください。 ＊2 検出素子誤差± 0.3 ℃と風速影響± 0.4 ℃の加算誤差になります。	
	CO_2 濃度	CO_2 濃度計測	±（50 ppm ＋計測値の 5 %）
		出力分解能	10 mV
CO_2 濃度ドリフト		連続通電時、± 150 ppm/ 年（@1000 ppm） 無通電放置時（参考値）、± 15 ppm/48 時間 50 %RH 時	
CO_2 濃度初期安定時間		48 時間以上の無通電放置後、約 10 日（本体開封直後を除く） 上記以外、約 3 日	
時定数（参考値）	温度	8.5 min 以内（周囲風速 0.15 m/s において）	
	CO_2 濃度	3 min 以内（拡散状態）	
電源電圧		AC24 V － 15 % ～＋ 10 %（50/60 Hz）	
		DC24 V ± 10 %	
消費電力	AC24 V 時	3.0 VA 以下	
	DC24 V 時	2.0 W 以下	
絶縁抵抗		DC500 V、20 MΩ以上	
耐電圧	AC500 V	1 分間印加時、漏れ電流 1 mA 以下（ケース - 端子間）	
環境条件		定格動作条件	輸送・保管条件（梱包未開封時）
	周囲温度	0 ～ 50 ℃	－ 20 ～ 70 ℃
	周囲湿度	0 ～ 85 %RH（ただし、結露なきこと）	5 ～ 95 %RH
塗装色		ペールグレー（日本塗料工業会 BN-85（2003 年度版））	
主要部材質	カバー	PC 樹脂	
	ベース	変性 PPE 樹脂	
質量		約 80 g	
取付		別途手配品による取付	
接続		モジュラジャックコネクタ	
付属部品		本体ユニット取付ねじ（M3、L ＝ 16 mm）4 本	

■外形寸法

● 本体と壁直接取付キット

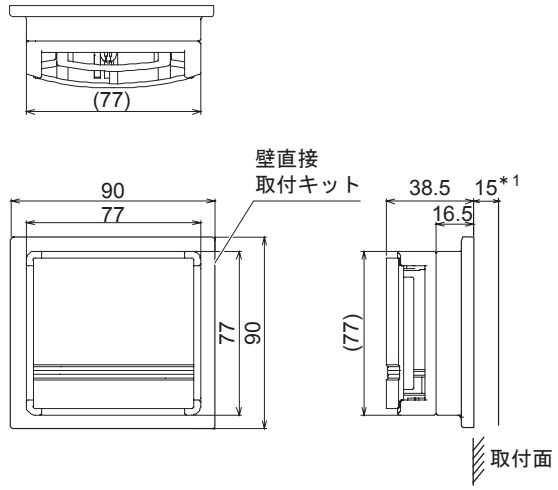


図 1　ネオセンサの寸法図（mm）

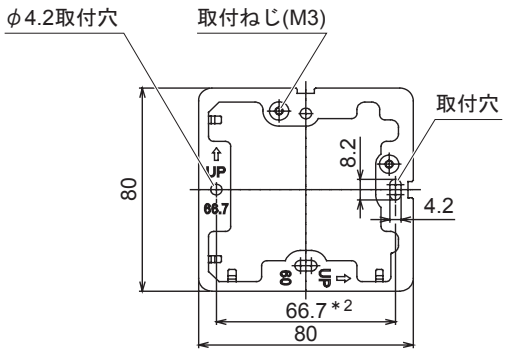


図 2　取付プレート寸法表面図（mm）

＊1　取付施工時は、配線スペースを取付面から壁内に 15 mm 以上確保してください。
＊2　JIS アウトレットボックス／ボックスカバー使用 66.7 mm 取付寸法（JIS C 8340（1999））

■取　付

⚠ 注　意
本製品は、本説明書に記載された仕様範囲内で取り付け、運用してください。 火災や故障のおそれがあります。
取り付けは、計装工事、電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。 施工を誤ると、火災や感電のおそれがあります。

● 本体の取り扱いについて

- 本体は、アルミ製の防湿袋で密閉して出荷します。これは、無通電放置時の吸湿による大きな出力ドリフトを防止するためです。『表 1　無通電放置後の出力ドリフト量（参考値）』を記します。なお、通電時の出力ドリフト量は、± 150 ppm/年です。

表1　無通電放置後の出力ドリフト量（参考値）

湿度 [%RH]	無通電時間 [h]			
	～ 6	～ 12	～ 24	～ 48
30	<±10 ppm			
50	<±10 ppm			<±15 ppm
80	<±10 ppm	<±15 ppm		<±25 ppm

- 本体は、検査・校正後、梱包され、工場出荷しています。
  施工後の大きな出力ドリフトをできる限り小さくするために、開封･取付は、電源投入直前（48 時間以内を目安とします）にしてください。
  開封から電源投入まで、また電源遮断後、長時間（48 時間以上を目安とします）無通電放置状態が続いた場合は、電源再投入後、ゼロガス校正を実施してください。

(参照)『■ 保守　● ゼロガス校正』

● 取付場所

重要 !!
- **センサの取付場所は、制御に関係する重要な要因のひとつです。**
  十分に検討のうえ、取付場所を決めてください。
- **有機溶剤などの薬品雰囲気では、出力値がシフトするおそれがあります。**
- **腐食性ガス・有機溶剤などの被測定気体の成分が、測定誤差・製品寿命の短縮・故障の原因となることがあります。**
  本製品を上記のような特殊な環境で使用する場合は、弊社販売員にご相談ください。

本製品は、次のような壁面に取り付けてください。
- 居住空間の平均的な温湿度を示す（目安：床上約 1.5 m）ところ。
- 周囲の風速は、0.1 ～ 0.15 m/s 程度のところ。
- 前面にメンテナンスできるスペースのあるところ。

● 取付禁止場所

本製品は、次のような壁面に取り付けないでください。
- OA 機器の発熱などによる熱のふきだまりがあるところ。
- 家具・ドアなどにより、空気の循環が妨げられるところ。
- 隙間風・吹き降ろし・水管・ダクトからの冷風、または温風の影響を受けるところ。
- 外気・日射の影響を受けやすいところ。
- 振動のあるところ。
- 本製品が結露するようなところ。
- 本製品に水滴が滴下するようなところ。
- 腐食性ガス・有機溶剤などの薬品雰囲気があるところ。
- 室内設置以外の用途（外気・ダクト内には使用しないこと）。
- 天井面への直接水平取付。

● 施工時の注意

- 用途に合わせた別途手配品の専用取付キットを使用してください。
- 本体内部に切り粉・電線くずが入らないようにしてください。
- 施工時は、取付面・本体との間にケーブルを挟み込まないようにしてください。
- カバー取外時は、温度検出素子を破損させないように注意してください。
- 天井面以外でも水平取付時には十分な周囲風速が得られないおそれがあるので、注意してください。
- 壁内のアウトレットボックスなどからセンサ裏面に空気の流入がある場合は、シール材などを使用し、空気の流れが発生しないようにしてください。
- 設置後、センサを周囲の雰囲気に十分なじませてください。

● カバーの着脱

重要 !!
- **カバーの着脱、取付時・本体ユニット取付時は、プリント基板上の温度検出素子に接触しないように十分注意してください。**
  また、プリント板組立に取り付けられている温度検出素子を曲げないようにしてください。
  精度が狂う原因になります。

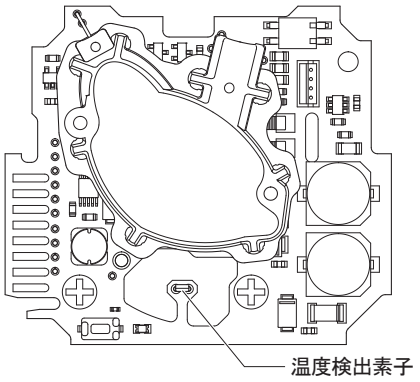


図 3

- 取り外し
  本体上面内部のばね部を細棒などにより押し込んで、外します。
- 取付
  本体ユニット下部にあるカバー取付穴（2 か所）にカバー爪（2 か所）を差し込んで、本体ユニット上部のばね部で固定します。

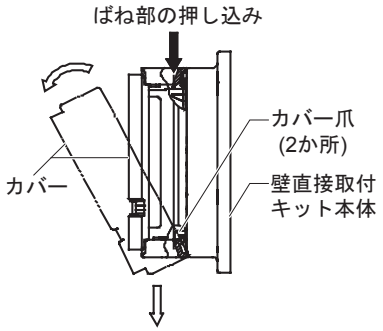


図 4　カバーの着脱

● 取付手順

《壁直接取付》

(1) 取付プレートを壁内のボックスカバー（JIS C8340:1999 アウトレットボックス用取付寸法 66.7 mm）に取り付けます。
(2) 壁直接取付キット本体を取付プレートに取り付けます。(参照)『図 7』
(3) モジュラ付ケーブルの出力リード線と外線（負荷側）を接続します。
(4) モジュラ付ケーブルを本体ユニットに接続します。
(5) 本体のカバーを外します。(参照)『図 4』
(6) 本体ユニットの左右高さ調節レバーの位置を上部（L 位置）に設定します。（参照）『図 10』
(7) 付属ねじ（M3、L=16）4 個を用いて、本体ユニットを壁直接取付キット本体に取り付けます。
(8) カバーを本体ユニットに、はめ込みます。(参照)『図 4』

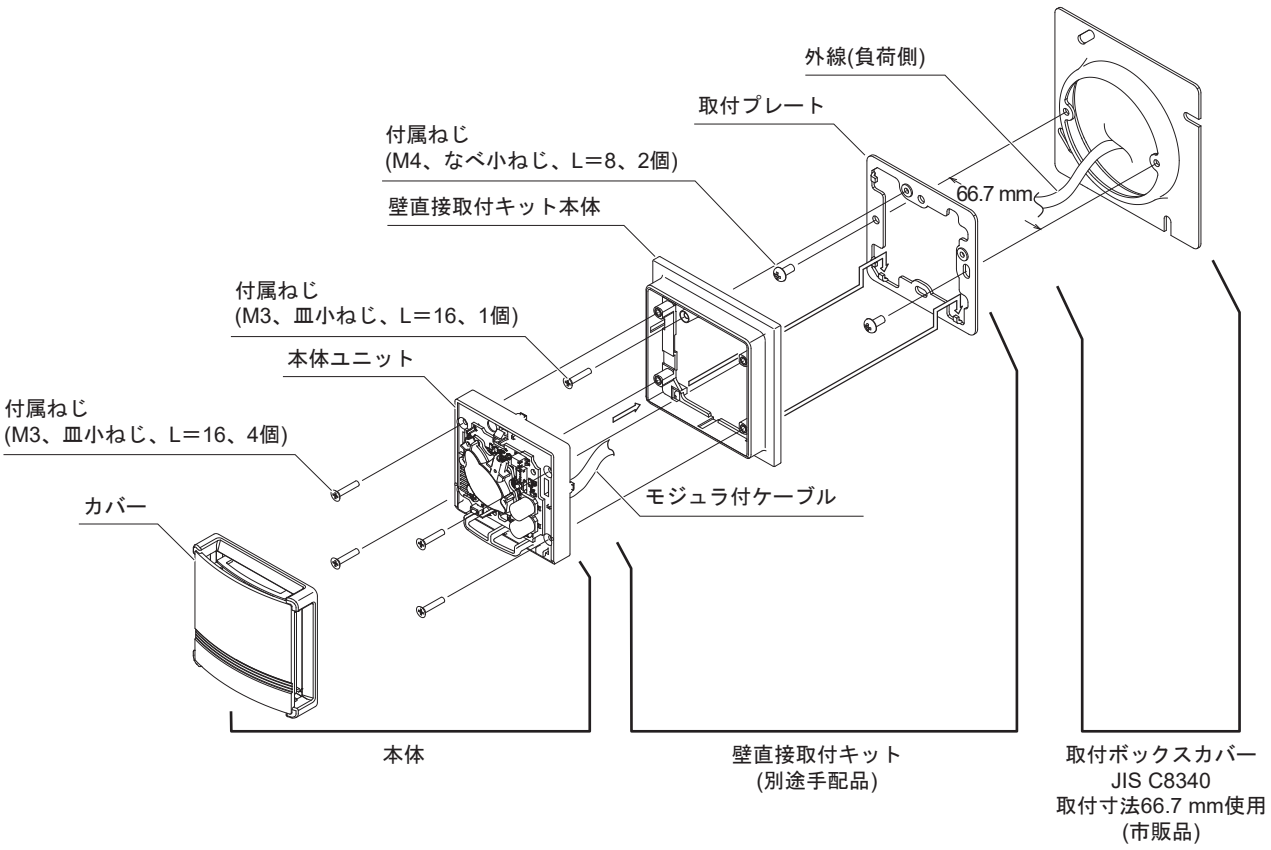


図 5　取付手順　壁直接取付キットによる取付

《配管接続形サーモプレート取付》

(1) 取付プレートを配管接続形サーモプレートに取り付けます。
(2) 壁直接取付キット本体を取付プレートに取り付けます。(参照)『図 7』
(3) モジュラ付ケーブルの出力リード線と外線（負荷側）を接続します。
(4) モジュラ付ケーブルを本体ユニットに接続します。
(5) 本体のカバーを外します。(参照)『図 4』
(6) 本体ユニットの左右高さ調節レバーの位置を上部（L 位置）に設定します。（参照）『図 10』
(7) 付属ねじ（M3、L=16）4 個を用いて、本体ユニットを壁直接取付キット本体に取り付けます。
(8) カバーを本体ユニットに、はめ込みます。(参照)『図 4』

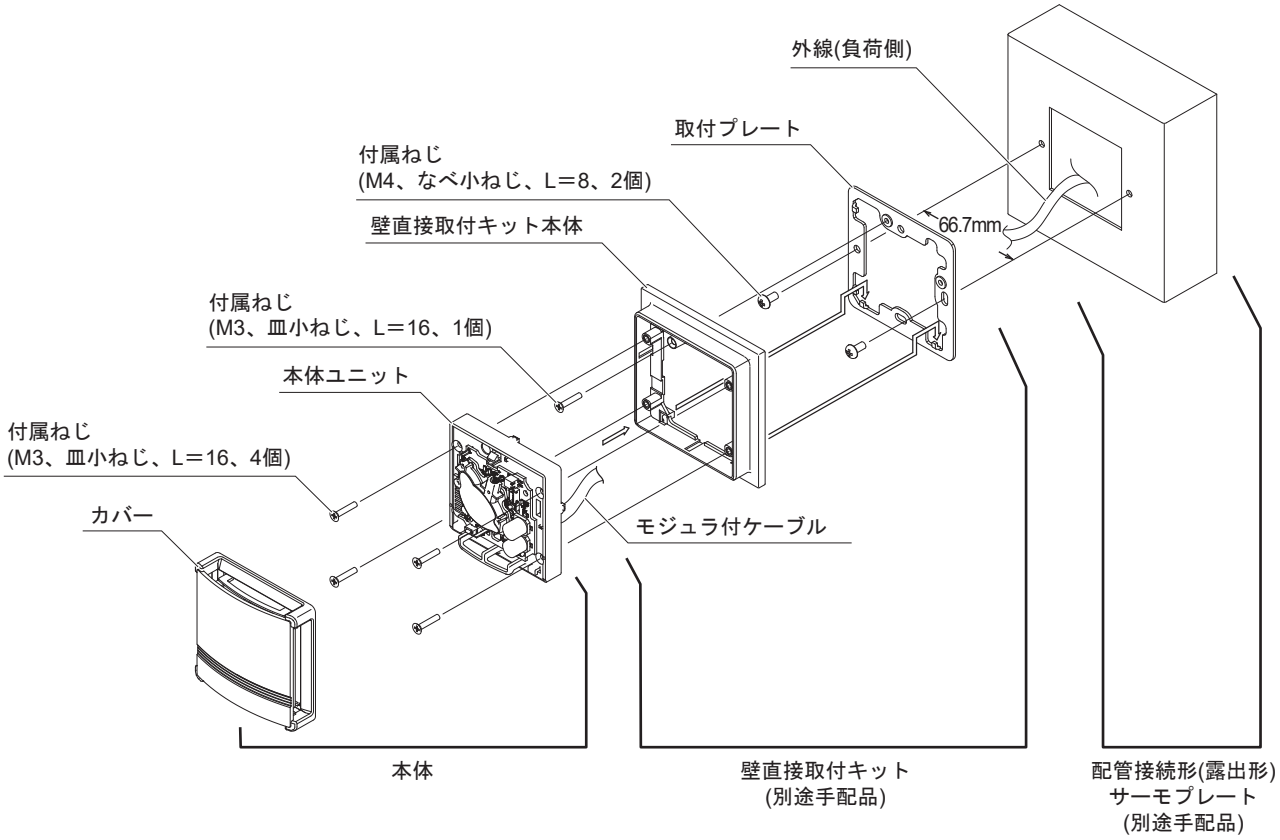


図 6　取付手順　配管接続形サーモプレート取付

《壁直接取付キット本体の取付》

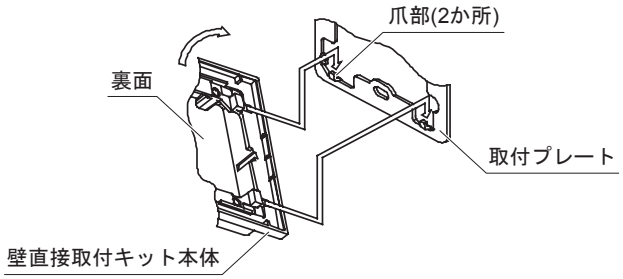


図 7　壁直接取付キット本体の取付

● 取付壁からの外乱（温熱輻射、伝導など）対策

外乱のある場合は､次の手順で検出素子位置(高さ)を変えて使用できます。

(1) 取付ねじ 4 本を外します。

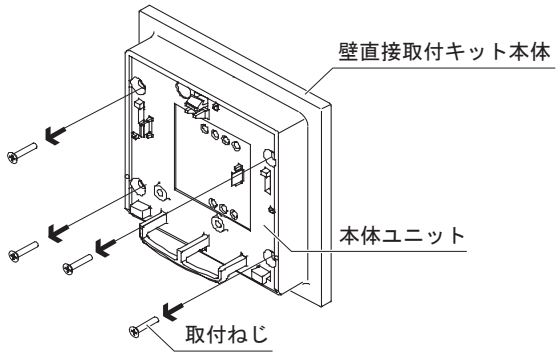


図 8

(2) 本体ユニットを壁直接取付キット本体から引き出します（9 mm 出ます)。

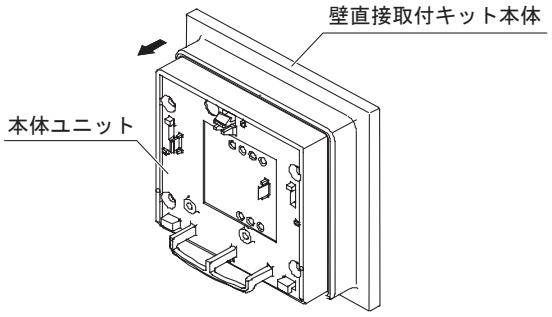


図 9

(3) 左右の高さ調節レバーを下げます。

＊ 出荷時、調節レバーは、上部（L 表示）位置です。

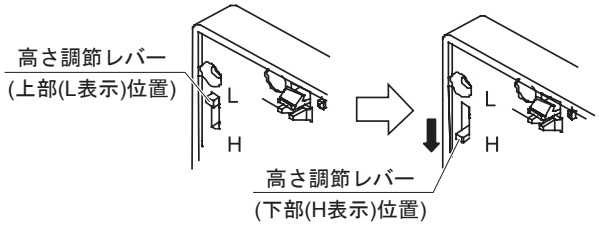


図 10

(4) 本体ユニットを、壁直接取付キット本体に、取付ねじ 4 本で取り付けます。

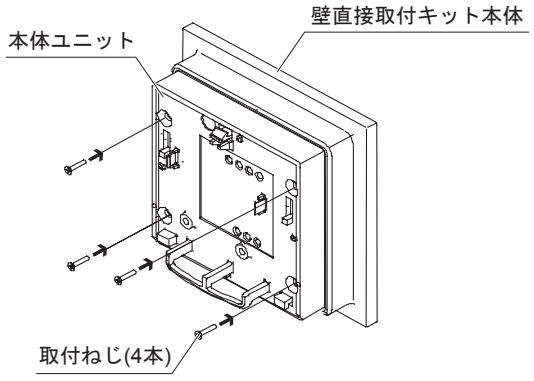


図 11

本体ユニットが突き出た状態（図 12）が、取り付けの完了です。

＊ 外乱に対する対策効果は、環境により異なります。

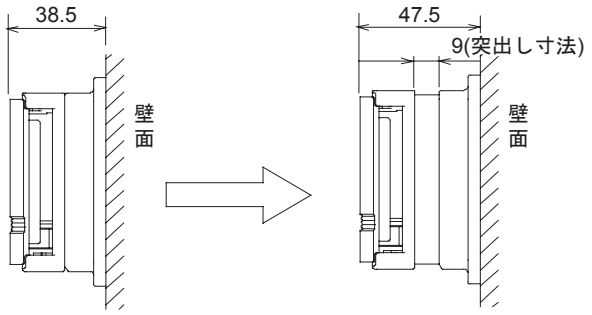


図 12

■結　線

⚠ 注　意
本製品は、本説明書に記載された仕様範囲内で結線し、運用してください。 火災や故障のおそれがあります。
結線は、計装工事、電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。 施工を誤ると、火災や感電のおそれがあります。
結線作業は、本製品への電源を切った状態で行ってください。 感電や故障のおそれがあります。
配線については、電気設備技術基準、内線規程などに従って施工してください。 施工を誤ると、火災のおそれがあります。

● 配線方式の選択

接続先製品および施工条件に応じて、次の①～④の配線方式から選択してください。

① LANケーブルと形番DY7204A0008を利用した配線
製品本体のモジュラジャックにLANケーブルを接続し、接続先製品の近傍でモジュラ付ケーブル（形番DY7204A0008など）を介して接続します。
LANケーブルは、EIA/TIA-568準拠Cat5e以上をご利用ください。

② 形番DY7227A0020のみを利用した配線
距離が短い場合には、モジュラ付ケーブル（形番DY7227A0020など）を製品本体のモジュラジャックへ直接接続することもできます。

③ CVVケーブルと形番DY7227A0020を利用した配線
製品本体のモジュラジャックにモジュラ付ケーブル（形番DY7227A0020など）を接続し、接続先製品からのCVVケーブルと閉端接続子（7か所）を用いて接続します。
ケーブルは、1.25 mm^2多芯CVVケーブルをご利用ください。

④ 電源線と信号線を別ケーブルにした配線
①～③のように信号線と電源線を同一ケーブルで配線できるのは、本製品の接続先が次の弊社製品の場合に限ります。
それ以外の製品へ接続する場合は、ノイズの影響を防止するため、信号線と電源線を別のケーブルで配線してください。
通信線には1.25 mm^2以上のシールド多芯ケーブル（CVV-S）の利用を推奨します。電源線には1.25 mm^2以上のIV線の利用もできます。

表2　信号線と電源線を同一ケーブルで配線できる接続先

接続先の製品	形　番
VAVコントローラ	WJ-1201*00**
Infilex™ VC	WY5206*1010
ジェネラルコントローラ＋I/Oモジュール（H.Code10以上）	WJ-1111W0000＋RY51*
Infilex GC、またはInfilex GD＋I/Oモジュール（H.Code10以上）	WY511*W00*0＋RY50*

● モジュラコネクタ接続

モジュラの内部回路を図 13 に示します。モジュラ付きケーブルとリード線の接続は、図 14 を参考に閉端接続子にて接続してください。

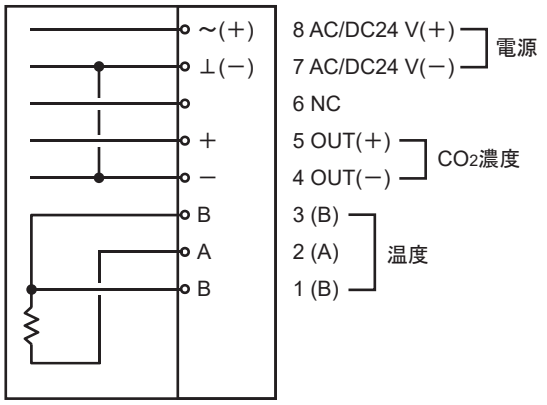


図 13　内部回路

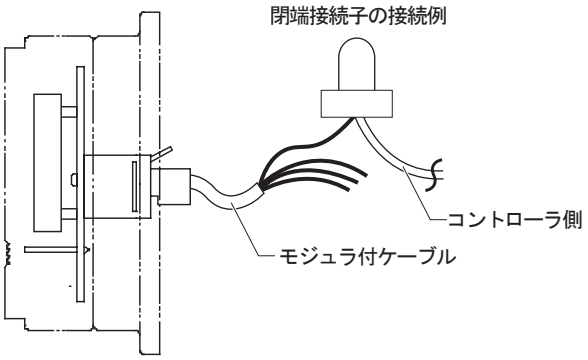


図 14　モジュラジャック接続図

● 配線上の注意

重要 !!
- 本製品に定格以上の電圧を印加した場合は、安全のため新品に交換してください。
- 温度出力線に電源をつながないでください。
  発煙・焼損のおそれがあります。
  給電前に配線を確認してください。
- 他の製品との AC24 V トランス共用は、行わないでください。
- アナログ入力がコモン共通のコントローラと接続する場合は、AC24 V 電源を単独電源としてください。

- シールドは、コントローラ側で接地してください。
- 最大配線長は、50 m です。
- 配線は、接続先コントローラの仕様・取扱説明書を確認してください。

● 電源配線方法

⚠ 注 意

電線の端末は、絶縁被覆付き圧着端子を使用してください。
絶縁被覆がないと、短絡して火災や故障のおそれがあります。

本製品は、次のように接続してください。

(1) カバーを外します。
(2) 『●接続例』のように、コントローラと接続します。
(3) カバーを戻します。

⚠ 注 意

結線作業後、カバーを元に戻してください。
カバーをしないと、感電のおそれがあります。

● 接続例

≪弊社コントローラ（形番 WJ-1201**0**・形番 WY5206*1010）に接続する場合≫

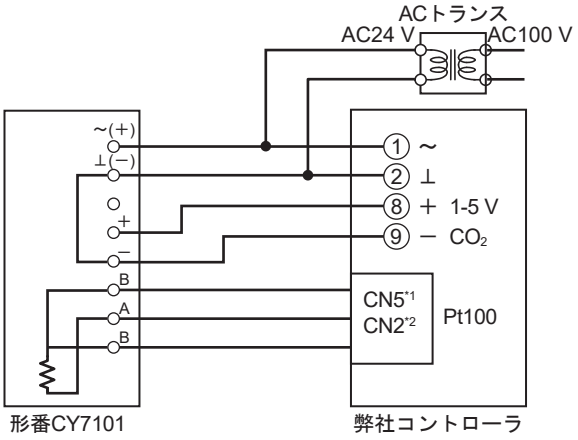


図 15

*1 形番WJ-1201**0**の場合

*2 形番WY5206*1010の場合

≪弊社コントローラ（形番 WJ-1201**0**・形番 WY5206*1010）以外に接続する場合≫

• DC 電源

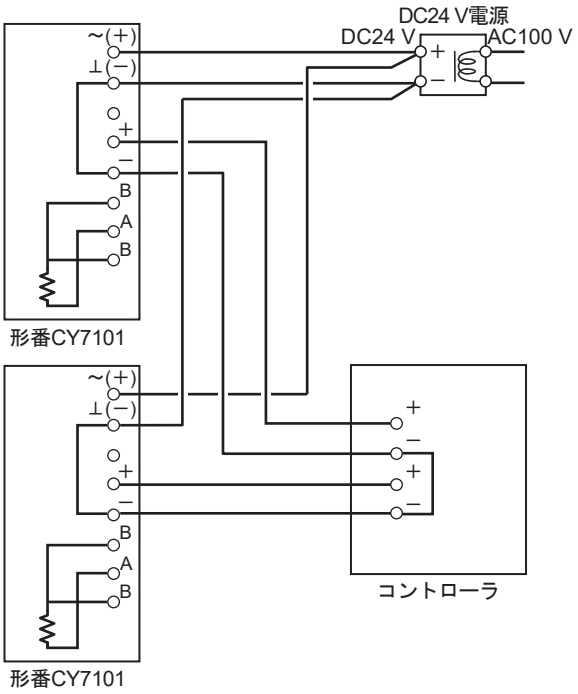


図 16

重要 !! • DC24 V 電源は、共用できます。
ただし、8（AC/DC24 V（＋））－ 8（AC/DC24 V（＋））間、7（AC/DC24 V（－））－ 7（AC/DC24 V（－））間を『図 16』に示すとおりに配線してください。

• AC トランス（AC24 V 電源）

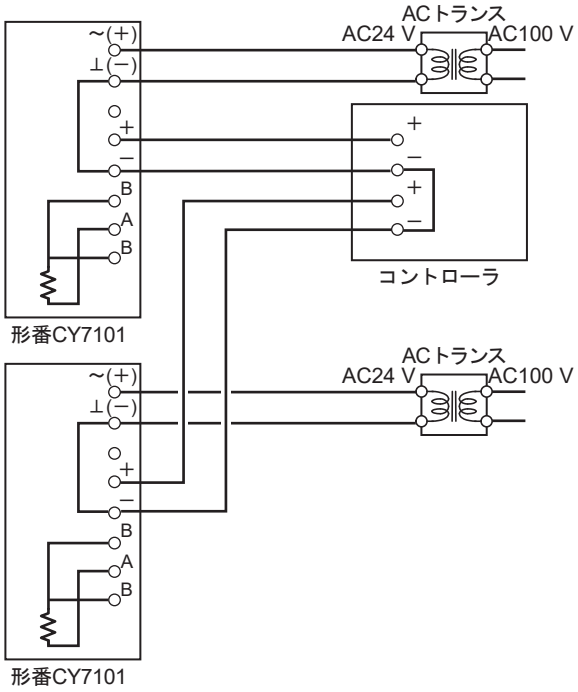


図 17

AC トランス（AC24 V 電源）を介して本製品に電源を供給する場合は、次の注意事項を守ってください。

重要 !! • 電源電圧の AC24 V を供給するトランスには、絶縁トランスを使用してください。
接続するコントローラ側のアナログ入力がコモン共通の場合は、AC24 V 電源を単独電源（トランス）としてください。共通電源（トランス）の場合は、コモンにループができ、故障の原因となるため、他の機器と共有しないでください。

● 誤配線の接続例

AC トランス（AC24 V 電源）を共用すると回路内にループができ、故障の原因になります。

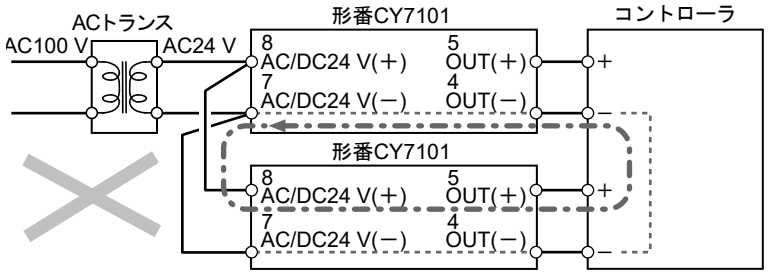


図 18　回路内にループができた場合

AC トランス（AC24 V 電源）を共用し、さらに、8-7 間、7-8 間を誤配線した場合は、コモンを通じて内部回路がショートし、故障の原因になります。

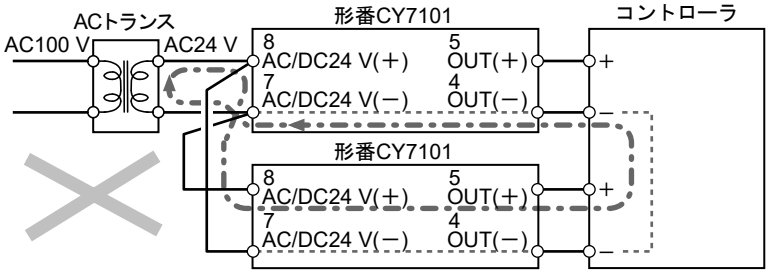


図 19　誤配線した場合

■動　作

動作中の出力信号・LED の関係を『表 3　出力信号（CO_2 濃度）と LED』に記します。

表3　出力信号（CO_2濃度）とLED

項　目	出力信号（CO_2 濃度）	LED 点灯状態
イニシャル中（電源投入後、1 分間）	約 1 V	点灯
通常動作中	1 ～ 5 V	消灯
ゼロガス校正中	校正前の値	点滅
計測範囲外、または故障発生中	約 0.5 V	点灯

故障発生時は、ゼロガス校正の実施により、正常動作に回復する場合があります。
ゼロガス校正により、正常動作に回復しない場合は、機器異常の可能性があります。
弊社担当者に連絡してください。

(参照)『■ 保守　● ゼロガス校正』

■保　守

重要 !!　●本製品を分解しないでください。故障の原因になります。

次の各項に従い、点検をしてください。

(1) 定期点検

CO_2 濃度センサは、被計測流体がケース内に入ります。

1 年に 1 回程度、カバーの目詰まりを点検・清掃してください。

⚠ 注　意

保守作業後、カバーを元に戻してください。
カバーをしないと、感電のおそれがあります。

(2) 異常状態と点検および処置

運転中に異常が生じた場合は、『表 4　異常状態と点検・処置』にしたがって点検し、必要な処置をしてください。

表 4　異常状態と点検・処置

異常状態	点　検	処　置
出力が出ない 出力がふらつく	配線コネクタのゆるみ	配線をやり直す
	配線の断線	
	電源電圧の確認	
	センサ本体の破損	製品を交換する
出力の応答が遅い	センサ本体の粉じん蓄積・汚れの確認	カバーと内部の目詰まりを清掃する
誤差がある	設置場所の確認	(参照)『■ 取付』
		カバーと内部の目詰まりを清掃する
	実測値との誤差の確認	ゼロガス校正をする
		製品を交換する
		コントローラ側で調整作業をする

● ゼロガス校正

本製品は、連続通電状態において、最大± 150 ppm ／年の出力ドリフトがあります。
次の手順にしたがって、ゼロガス校正を 1 回／年、実施してください。
校正には、CO_2 サービスバッグ（別途手配品）、または CO_2 サービスボンベ（別途手配品）が必要です。

（参照）『AI-5803　CO_2サービスバッグ（CO_2ゼロガス供給キット） 仕様・取扱説明書』
（参照）『AI-6388　CO_2サービスボンベ（CO_2ゼロ点校正ガス供給キット） 仕様・取扱説明書』

重要 !!
- **『■ 取付』で記したように、長時間の無通電放置後、『表 1　無通電放置後の出力ドリフト量（参考値）』に示したドリフトが発生するおそれがあります。電源投入後、ゼロガス校正による校正が必要です。**
- **長時間の無通電放置後は、出力が安定するまでに 10 日程度必要です。校正作業は、電源投入後 10 日程度経過してから実施してください。**
- **CO_2 サービスボンベから放出される窒素ガスを直接吸わないでください。窒素ガスを直接吸うと、酸素欠乏症のおそれがあります。**
- **校正中に電源を切ると、故障のおそれがあります。校正が完了してから電源を切ってください。**

(1) 本製品のカバーを外し、ディップスイッチが 2 つとも ON 側にあることを確認します。
(2) カバー裏面のアダプタを CO_2 濃度ゼロガス注入口に装着します。

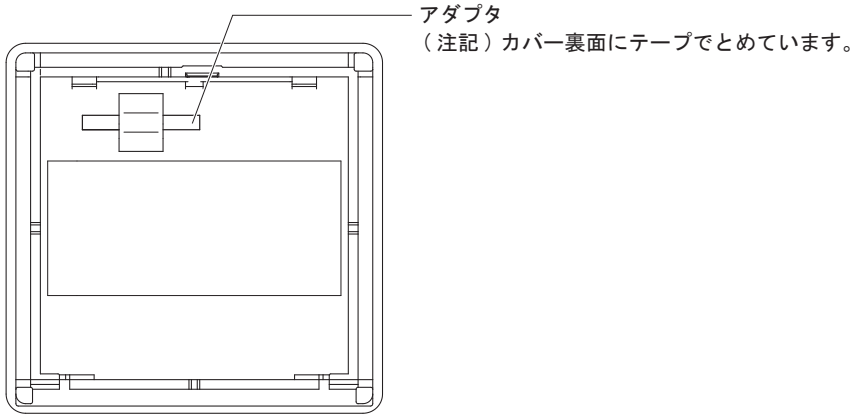


図 20　カバー裏面アダプタ

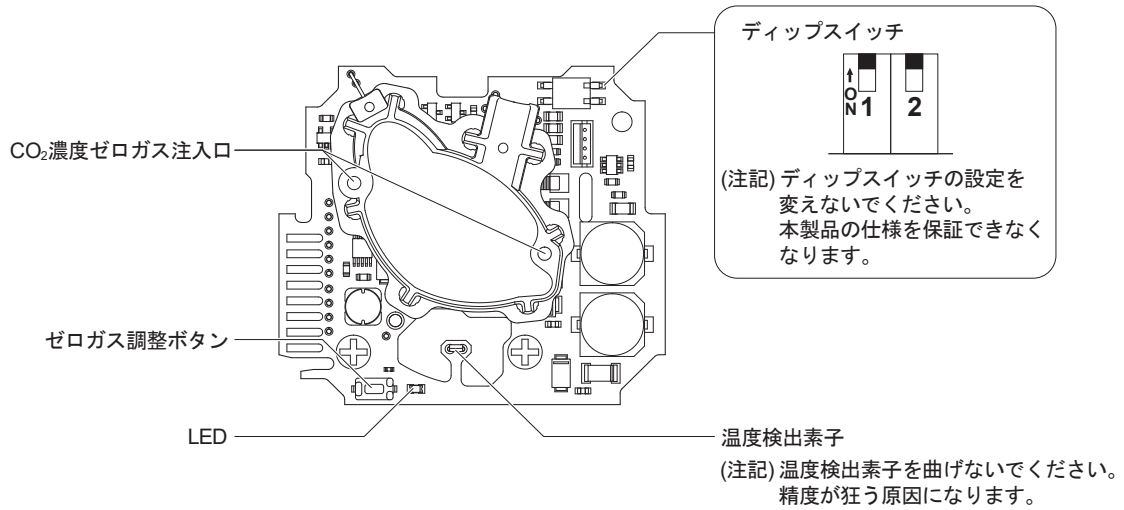


図 21　ゼロガス調整ボタン・CO_2 濃度ゼロガス注入口

(3) アダプタ装着済みの CO_2 濃度ゼロガス注入口へ CO_2 サービスバッグ、またはサービスボンベのガス供給チューブを装着します。
ガスが漏れないように、しっかりと装着してください。
ゼロガス注入口は、どちらを使用しても問題ありません。

(4) CO_2 濃度ゼロガスを供給します。
- CO_2 サービスバッグで校正する場合
  CO_2 サービスバッグのスイッチを ON にし、CO_2 濃度ゼロガスを供給してください。
- CO_2 サービスボンベで校正する場合
  レギュレータのダイヤルメモリの HI 位置を指示マーク（△）に合わせ、CO_2 濃度ゼロガスを供給してください。

(5) 本製品プリント板上のゼロガス調整ボタンを約 3 秒押します。
『図 21　ゼロガス調整ボタン・CO_2 濃度ゼロガス注入口』に示す LED が点滅します。
(6) CO_2 濃度が安定するまで、供給した状態で待ちます（約 2 分）。
校正が実施され、プリント板上の LED が消灯します。
(7) ガス供給チューブを外します。
(8) アダプタを外します。

(注記) ガス供給チューブは、紛失しないように保管してください。
他系統のセンサの校正にも、使用できます。

(9) カバーを取り付けます。

■廃　棄

本製品が不用になったときは､産業廃棄物として各地方自治体の条例にしたがって適切に処理してください。
また、本製品の一部、または全部を再利用しないでください。

ネオセンサ、Infilexはアズビル株式会社の商標です。

アズビル株式会社 ビルシステムカンパニー

[ご注意] この資料の記載内容は、予告なく変更する場合もありますのでご了承ください。

お問い合わせは、コールセンターへ
0120-261023

https://www.azbil.com/jp/

ご用命は、下記または弊社事業所までお願いします。